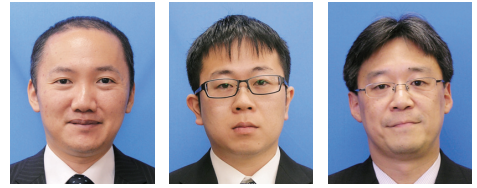


調査・設計等業務の入札・契約の 動向と技術評価の現状分析



社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室
主任研究官 菊田 友弥 (博士(国際協力学)) 研究官 鈴木 貴大 室長 中尾 吉宏

(キーワード) 調査・設計等業務、入札・契約、総合評価落札方式

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. はじめに

国土交通省の調査・設計等業務では、2007年度以降、価格点と技術点の加算で落札者を決定する総合評価落札方式を導入しており、国総研は、入札・契約状況のモニタリングなどにより、業務の品質確保に係る課題分析や改善案の検討を進めている。同方式の導入から10年が経過し、技術点差の縮小傾向等が指摘されているため、本稿では、品質を重視する入札契約制度を目指す観点から、実質的に価格で落札者が決まる傾向が嵩じていないかを分析した結果を報告する。

2. 総合評価落札方式の現状分析

総合評価落札方式の価格と技術の評価に関する配点の比率別の件数の割合の推移を見ると、2011年度以降、1:1の件数割合は増加傾向にある(図-1)。

同方式の落札者の価格点と技術点の順位に着目すると、2016年度は落札者の92.0%が技術点1位の者となり、また、技術点1位かつ価格点1位の者が落札した割合は53.4%となった(図-2)。これらの指標の推移(図-3)を見ると、技術点1位の者が落札する割合は、経年的に増加傾向にあり、技術優位の落札傾向が進んでいると捉えることができる一方で、技術点1位かつ価格点1位の者が落札する割合も増加傾向にあることから、競争参加者の価格に対する意識も強まりつつあると考えられる。

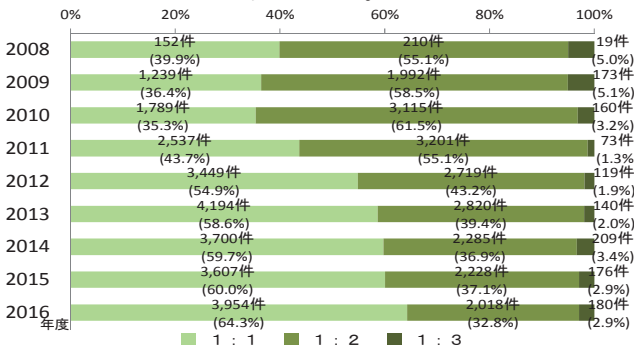


図-1 配点比率別の契約件数・割合の推移

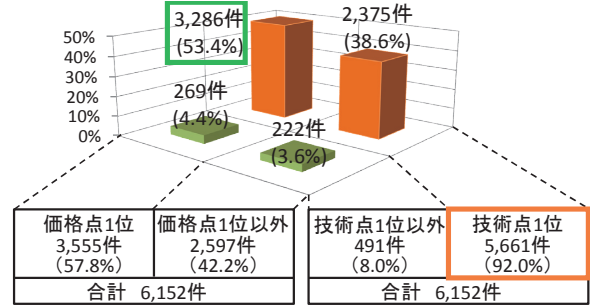


図-2 落札者の価格点順位、技術点順位との関係(2016年度)

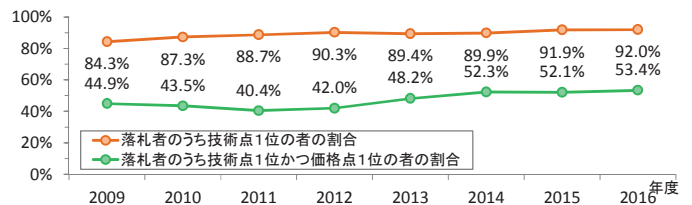


図-3 落札者の技術点1位・価格点1位の者の割合の経年変化

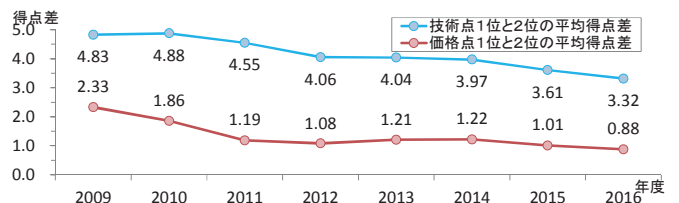


図-4 技術点・価格点の1位と2位の平均得点差の推移

また、技術点1位と2位の平均得点差(60点満点で換算)と、価格点1位の者と2位の平均得点差の推移(図-4)を見ると、いずれの得点差も経年的に縮小する傾向にあるものの、2011年度以降は、技術点は価格点の3倍を超える得点差が確保されており、現状では技術でより差がつく傾向に変わりはないと解することができる。

3. 今後の研究

上述の分析で、技術優位の落札傾向を確認した。現在、得点差の縮小要因を明らかにするため、評価項目別の得点・配点等の分析を進めている。引き続き、制度改善に資する研究を進めて参りたい。

☞ 詳細情報はこちら

1) 国総研 社会資本マネジメント研究室
<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/theme03.html>